

会報 ふくしま

No.91

R8.1.23発行



「令和8年日の出、希望の輪」(撮影／白河支部 宗像 浩)

CONTENTS

- 1 会長あいさつ
- 2 新年のあいさつ (法務局長)
- 3 新年のあいさつ (政治連盟会長)
- 4 新年のあいさつ (公嘱協会理事長)
- 5 新年のあいさつ (顧問弁護士)
- 6 会務報告
- 7 支部だより
- 8 随筆
- 9 新人調査士紹介
- 10 年男・年女紹介
- 11 ミニコーナー
- 12 インフォメーション
- 13 編集後記

会員のみなさまへ

本年もよろしく
お願いします。



広報キャラクター 地識くん



新年のごあいさつ

会 長 土 井 將 照

令和8年 謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年の干支は「乙巳（きのとみ）」で、それまでの努力が実を結び始める時期でしたが、皆様はいかがでしたでしょうか。そして、今年は「丙午（ひのえうま）」ですが、前回が1966年（昭和41年）で、十干と十二支の組み合わせで60年ぶりの丙午年となります。情熱や行動力、決断力が試される力強い、前向きな運氣上昇の意味があるそうです。皆様におかれましては、本年も多幸の年となりますことお祈り申し上げます。

さて、昨今の民法を含めた法的環境の変化は、私たち土地家屋調査士にも大きく影響しております。土地基本法の改正により土地所有者の義務として土地境界を明らかにすることや、民法改正による調査測量や土地境界標探索のための隣地使用権、相続登記の義務化による登記記録と実態の一致促進、そして本年4月からは住所や名称変更についての登記も義務化されます。皆様も、土地家屋調査士を取り巻く業務環境が良くなってきていることを感じられているのではないのでしょうか。

そこで、業務環境の向上に伴い、皆様には、よりきめ細やかな業務の実践をお願い申し上げます。昨年は本会に寄せられる苦情案件が急増し、事務局を含めその対応に大変苦慮いたしました。総会や研修会でもお伝えしておりますが、依頼者や関係者への丁寧な説明、委任や受任の有無、見積や請求金額の正しい情報のやりとり、コミュニケーションの取り方など、ちょっと気をつけて頂けると苦情にならないと思われる事案が多く見受けられました。隣接法律専門職としての国家資格者としてふさわしい立ち居振る舞いを心がけて頂きますようお願いいたします。

さて、本会といたしましては、本年もこれまで同様、会員の皆様の業務環境向上のため、制度広報による一般市民への「土地家屋調査士」の浸透と、研修による業務対応能力の充実、制度への理解と帰属意識の醸成を柱として活動してまいりたいと存じます。つきましては、皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

研修に関しましては、福島県土地家屋調査士会が実施している自由参加型研修の筆界特定制度研究委員会による実務講座、境界紛争解決支援センターふくしまと社会事業部が企画するADR研修は、他会の会員からも好評を得ている大変有意義な講座です。これらの講座は他会からの要請によって、出前講座を実施しているほどの内容となっております。そのような講座に参加されないことは、本会会員として大変勿体ないことと思います。理論と実践によるこれらの研修機会を有効に活用し、隣接法律専門職としてのスキルアップを図って頂くことで、より進んだスペシャリストを目指して頂きたいと存じます。

土地家屋調査士法第3条に規定される業務でありますことから、すべての会員の皆様に関係していることと言えます。自分には関係ないという意識ではなく、土地家屋調査士制度の中の一人であるという理解から、そして自身の業務能力向上の観点から、積極的にご参加頂きますようお願いいたします。

私たちが目指すところは国民からの「土地家屋調査士だから安心だ」との信頼を普遍的なものとすることです。すべての会員がそれらの技能を身に付けることができれば、「土地家屋調査士」の社会的知名度と評価が格段に向上するものとの期待は大きく、その日が一日でも早く訪れることを願うものであります。

本年も、役員一同、土地家屋調査士制度の発展と皆様の業務環境改善を目指し、情熱をもって頑張っておりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様には、本年がより一層のご活躍とご隆盛の年となりますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



新年のごあいさつ

福島地方法務局長 小松 淳也

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

福島県土地家屋調査士会及び会員の皆様方におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、平素より、登記業務を始めとした民事法務行政の適正・円滑な運営に格別の御理解・御協力を賜っていることに対し、厚く御礼を申し上げます。

令和6年4月1日に相続登記の義務化等を内容とする改正不動産登記法が施行されてから1年9か月が経過しましたが、本年4月1日に施行される住所等変更登記の義務化をもって、令和3年の民法等の一部改正により成立した所有者不明土地に関する各種施策の全てが施行されることになります。

これまでの間、取り分け各種登記の義務化を中心に、その周知広報について、貴会及び福島県司法書士会と当局で共催した説明会や無料相談会を始め、貴会会員の皆様の御協力も得ながら幅広く展開してまいりました。お陰様を持ちまして、相続登記の義務化の認知度は相当程度高まっており、相続登記の申請につながっていることを実感しておりますが、このことが表示に関する登記に目が向くきっかけになっているとも伺っております。ただ他方で、住所等変更登記の義務化の認知度はといえば、まだまだ不十分であることから、今後は住所等変更登記の義務化についても力点を置いて周知広報を行ってまいりたいと考えておりますので、引き続きの御協力をお願いいたします。

表題部所有者不明土地解消事業につきましては、現在、所有者等探索委員として多くの会員の皆様に御協力いただいているところです。困難度の高い事案も少なくない中、委員の皆様には御苦労をお掛けしておりますが、成果は着実に上がっており、今後も皆様方の専門的知見は不可欠と考えておりますので、所有者不明土地の解消に向け、今後とも、一層の御支援を賜りますようお願いいたします。

法務局地図作成事業につきましては、現行の整備計画が令和6年度で終了したため、昨年3月に、令和7年度を初年度とする新整備計画が策定され、これに基づいて事業が実施されております。本年度におきましては、1年目作業をいわき市平字尼子町ほか地区（被災地域復興型）と郡山市若葉町ほか地区（防災・まちづくり型）で、2年目作業をいわき市勿来町窪田御前崎ほか地区（被災地域復興型）と福島市腰浜町ほか地区（防災・まちづくり型）でそれぞれ実施しているところですが、いずれの作業も会員の皆様の御協力により順調に進捗しており、2年目作業については昨年12月に縦覧を終了しております。本事業につきましても、政府方針を踏まえ、重要課題との位置づけで取り組んでおりますので、引き続きの御協力をお願いいたします。

巷間では、こうした各種施策を契機として、不動産の管理・処分はもとより、登記制度そのものに対する国民の関心もますます高まってきており、土地家屋調査士の皆様方には、不動産の表示に関する登記及び土地の筆界を明らかにする専門家として、ますます御活躍の場が広がっていくことが期待されています。

当局としても、福島の復興にも大きな役割を果たしている皆様方と軌を一にし、ともに福島の復興に一層の貢献を果たしてまいる所存であり、その上で、社会のニーズに的確に対応し、国民の皆様の期待に応えるよう努力してまいりますので、今後とも御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

終わりに、貴会のますますの御発展と会員の皆様方の御健勝を心からお祈りいたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。



新 年 の ご 挨拶

福島県土地家屋調査士政治連盟

会 長 柴 山 武

令和8年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、日頃より、当政治連盟の活動にご理解とご支援をいただいておりますこと、誠にありがたく感謝申し上げます次第です。

昨年は国内で様々な出来事がありましたが、一年間を象徴する漢字の代表「熊」に翻弄された一年でもありました。現地作業が多い私たち土地家屋調査士にとって極めて身近な問題で、熊スプレーや、鈴、爆竹等々購入し、身構えながら現地作業をした一年でもありました。しかし、未だ収束する気配もなく、引き続き今年も注意が必要かと思われます。気候変動に伴う猛暑被害を含め、改めて自然の脅威を実感させられた次第です。

さて、土地家屋調査士政治連盟は、不動産に係る経済活動の根幹をなす「土地・建物の権利の明確化」を担う土地家屋調査士の幅広い活動を政治に訴え、土地家屋調査士の現場の声を政治に届け、制度の充実・発展と土地家屋調査士の地位の向上を目指します。

昭和2年、税務署の土地調査員として活動していた私たち先人は、自らの身分保証と法的権限の獲得を目指し立ち上がりました。20数年間にわたる弛まぬ政治活動の結果、ついに昭和25年、土地家屋調査士法制定の快挙を成し遂げました。熱意と団結力の力です。

私たちの業務の有用性、専門性にしっかりと政治の光が当たれば、土地家屋調査士はずっと輝き続けることができると信じます。

我が国の強制入会制度をとる全ての資格者団体が政治連盟を設立し、制度の維持、発展を図っていることがその証左であります。土地家屋調査士政治連盟は、土地家屋調査士会と密接に連携し、土地家屋調査士制度の有用性と専門性の活用を政治に訴え続けます。政治資金規正法や公職選挙法により調査士会が行えない政治活動を政治連盟が担当します。官公署に対する働きかけは調査士会が行い、並行して政治連盟が関係する議員に働きかけをすることが重要なのです。

例えば、土地基本法の改正についてですが、連合会が法務省に対し政策提言を行い、全調政連を通じて多くの議員に賛同していただいたことが決め手となり、土地基本法に「土地の境界の明確化のための措置を適切に講じなければならない」と明記されるに至りました。

土地家屋調査士政治連盟は、私たちの制度を維持し発展させるために不可欠であり、調査士会とこれまで以上に連携・連動を念頭に、不離一体の関係を堅持することが必要であると思います。

会員の皆様には、更なるご理解とご支援をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

新しい年が、会員の皆様とご家族、事務所の皆さんにとりまして飛躍の年となりますよう祈念申しあげ年頭の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

公益社団法人
福島県公共嘱託登記土地家屋調査士協会

理事長 竹内 博 幸

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様に於かれましては健やかで希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より協会の事業運営へのご理解とご協力を頂いておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、脳裏から消える事のない、あの忌まわしい大地震発生から15年の節目となりました。私の暮らす内陸はそれほど大きな景色の変化は見られませんが、訪れる海辺の町は大きく様変わり、懸命で力強い復興への足どりと活気を感じさせます。以前のような賑わいが一日も早く戻ることを願うばかりです。

私事です。昨年10月に郡山支部の仲間達と石巻市にある震災遺構の大川小学校を訪れる機会がありました。津波を受け時間が止まったあの空間では胸が張り裂けそうな思いで言葉が見つからず、自然のもつ非情さと厳しさを見せつけられた思いでした。

また、近年の災害とも言える猛暑への対応や、過去最多の熊の出没など、命の危機にもつながる環境変化への対応は各自の注意と備えが大いに必要でしょう。

年の始めに当たり、改めて災害に対する危機意識の重要性を再認識しているところです。

公嘱協会の社会貢献活動として、土地基本法の改正に基づいて公有地管理者に対し、権利関係や境界の明確化など適正な管理を促すため、市民及び官公署用地担当者を対象とした市民公開講座と出前講座を毎年開催しているところであります。前年度は須賀川市、田村市、会津美里町において、協会社員を講師として不動産登記法についての出前講座を開催致しましたが、何れも好評で継続開催の要望も頂いております。今年度におきましても、官公署と公嘱協会（土地家屋調査士）との一層の信頼関係の構築を目指して県内各支所において年1回以上の出前講座の企画開催を各支所長にお願いしているところです。

また、当協会における不動産に関する権利の明確化事業の柱として「登記所備付地図作成事業」への参画がありますが、昨年8月には「郡山市若葉町ほか地区」と「いわき市平字尼子町ほか地区」の2ヶ所を落札致しました。現在1年目作業が進められ、全4ヶ所が同時平行しており、有志ある担当社員の労苦に対しまして改めて感謝を申し上げます次第です。

また、法務局側では地図作成事業の意義をより正確に表すために「防災・まちづくり型」「被災地域復興型」と類型名称を変更して「10ヵ年計画」を推進しており、今後は過去に無かった白河市内DID地区での実施が予定されているとの事です。

これらを受け、地図作成事業について安定した受託と処理体制の改善を図るため「地図作成事業継続に係る特定費用準備資金」を新たに設け、発注者及び受託社員の負託とコスト軽減に比べられるよう準備を進めているところです。

今年度におきましても専門家集団としての特異性を活かし、公益法人としての使命と役割を有効に果たせるよう注力し、官公署から信頼され、そして選ばれる組織づくりを図って参ります。本年も会員の皆様には一層のご理解とご協力を頂けます様お願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ

顧問弁護士 吉 津 健 三

皆様、あけましておめでとうございます。

昨年の新年の会報で「難問」の1つが解けた話を書かせていただきましたが、今年もそれと同じような、ずっと疑問に思っていることについて書きます。

さて、自分が小学生の時に中学生がものすごく大人に見えていたのに、いざ、自分が中学生になると小学生の時から成長がなく悪ガキのままに思えました。自分が中学生の時に高校生がものすごく大人に見えていたのに、いざ、自分が高校生になるとこれまた中学生の時と言動が変わることもなく成長してきたとは全く思えませんでした。自分が高校生の時に大学生は既に「大人」だったのに、自分が大学生になると「大人」ではなく「子ども」のままでした。自分が社会人1年目のころキャリア10年くらいの先輩がものすごく仕事ができて羨望の対象だったのに、いざ自分がそのキャリアに到達するとほとんど成長していないことにがっかりしました。自分が弁護士1年目のころキャリア10年くらいの先輩が何でも知っていて大いなる敬意をもって接していたのに、いざ自分がそのキャリアに到達すると未だ知らないことだらけで、後輩から敬意をもって接してもらっているなどとは到底思えませんでした。これまでの人生、このような感覚を持ち続けてきました。

このような感覚は、どうやら私だけのものではないようです。同級生や同期生にこの話をすると、皆、同じような気持ちでいる（いた）と言って、自虐的な会話で盛り上がります。

なぜ、人はこのような感覚を持つのでしょうか？人は、本質的に謙虚だからでしょうか？実は単なる主観と客観のずれというだけのことかもしれませんが、それでも、やはり、自分自身に照らしてみると、とても主観と客観のずれで整理できるようには思えません。このような感覚はおそらく生涯にわたって持ち続けるのだらうと予想しています。

今年、私は、いよいよ還暦を迎えるにあたって、このような感覚をプラスに転じることにしました。すなわち、自分は先輩方を見て思ったように成熟もしていなければ、能力も上がっていない。見方を変えれば、まだまだ自分には伸び代があることになる。そうであれば、人生100年時代において、これから、もっと成熟できるように見聞を深め、もっと能力が上がるように勉強していこうと思います。

日々、精進して参りますので、皆様、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

会 務 報 告

【広報部報告】

相続登記促進キャンペーン新聞広告の掲載について

本年11月20日付け福島調発第243号をもって案内しました「相続登記促進キャンペーン」新聞広告掲載協賛者募集につきまして、大勢の会員の皆様からのご協力を頂きましたこと心より感謝申し上げます。

お蔭様をもちまして、最終的に160名の協賛のお申込みを頂くことができました。

記事については現在、法務局、司法書士会、本会の三者で打合せを重ね、準備を進めているところです。

1月25日の掲載日には是非紙面をご覧ください。

掲載予定日：令和8年1月25日(日)

掲載予定紙：福島民友新聞、福島民報新聞（いずれも見開き）

支部だより

全国青年土地家屋調査士大会 in北海道への参加

福島支部 柴 山 大 輔

青年土地家屋調査士会（以下、青調会と称す）の全国大会が令和7年9月6日(土)、北海道は札幌にて開催されました。

せっかくこの組織に所属させていただいているからには是非この大会に参加してみようと思立ち、さらに、せっかく「旅」に出るならば大勢のほうが楽しいと、短絡的な考えから福島支部に所属する青調会会員有志5名を巻き込ませてもらい、出発から帰路まで行動を共にして参加してきましたので紹介したいと思います。

つい先日の出来事のような感覚でこの文章を書き始めましたが、時はもう4ヵ月弱が経過する12月末ということで、時間の流れの速さに驚愕するばかりです。あの頃、福島県はまだまだ残暑厳しい気候でしたが、北の大地北海道は一足早く秋の香りを感ずる、そんな季節柄でありました。

冒頭、開会セレモニーで主催者である札幌青調会会長が挨拶し、全国の青調会会員をはじめ関係各位の出席への謝意を示しました。その後に研修講演となり、第一部で「北海道開拓の歴史と地図の成り立ち」、第二部で「GNSS時代の国家座標の扱い方」、第三部で「AIと土地家屋調査士」のラインナップで北海道各地区の青調会会員に講師を務めて頂き、開拓の歴史から現代に至るまでの測量技術の進歩、また、過去の資料と現代技術で得られる座標値等との整合性、関わり方についても考えることのできる貴重な講演でした。



講演の様子



合間の各会員の交流の様子

その後、研修会場から場所を「ホテルポールスター札幌」に移して懇親会が行われました。会の最中、余興として霊長類（レイチョウルイ）ならぬ青調類（セイチョウルイ）最強を決める、という企画のもと、各都道府県別対抗のアームレスリング大会が開催されました。この大会はアームレスリングの公式ルールに則ったもので、北海道

アームレスリング連盟から派遣された公式レフェリーの裁きのもとに行われる本格仕様であり、札幌青調会のこの大会にかける本気度が伺えるものでした。この企画にあたり、我々福島会としては、柳田英樹会長（郡山支部）指揮のもと、田原心也会員、渡辺隆司会員、関口洋平会員を福島会代表選手として繰り出し、見事1回戦を突破する活躍を見せましたが、続く2回戦で地元北海道とあたり、善戦したものの惜しくも敗退となりました。しかしながら、3名の活躍によって会場で「福島」のアナウンスは幾度となく流れ、福島会の存在感は遺憾なく発揮されました。



アームレスリング大会のリングの様子



福島会代表として試合に臨む3名の雄姿
(左から田原、渡辺、関口会員 いずれも福島支部)

主催である札幌青調会の趣向を凝らした催しによって大会も大盛会といった様相のなか、次の全国大会の開催地をアームレスリングの勝敗によって決定することとなり、熱戦の結果として岡山県が次回開催の地と決まりました。興奮冷めやらぬ会場ではありましたが、所定の時間となったことから一同、中締め発声のもとに全国青年土地家屋調査士大会in北海道は終了しました。

全国大会に参加することは初めてでしたが、今回の大会・懇親会を通して、全国各地の青調会会員と繋がりを持つ機会を得たことは滅多に得られるものでは無く、非常に貴重なものでした。

なお、貴重といえば今回の旅の移動手段で、今回はあえて飛行機を使わず、太平洋フェリーを利用して自家用車で北海道へ渡るという行程を選択しましたが、この体験もまた貴重なものでした。

仙台港から苫小牧港を結ぶ航路で、9/5(金)午後7時頃に出発し、9/6(土)午前11時に到着するスケジュールです。何ととっても日頃慣れた自家用車を積み込んで北海道に降り立てるのがメリットで、飛行機の搭乗手続きや荷物をコンパクトに纏める制約も無く、また、レンタカーの手配や鉄道の時間に縛られることもない、自由な行動が可能でした。船内は思いのほか豪華仕様で、大海原を眺めながらレストランで食事したり、大浴場も備えていることから太平洋からの日の出を眺めながら入浴したりすることまでできる意外なものでした。

当然、北海道内は自家用車移動ですので、帰りの寄り道観光も鉄道沿いに縛られることなくフリー。気軽に各所寄り道した際の写真を少々掲載します。



出航前の車両積み込み待機場場での風景



航行中のデッキから水平線を望む



太平洋フェリーいしかりの船内ホール。まさに洋上を移動するホテルといえる。



快晴のデッキより菊池支部長をセンターに据えて一枚



赤レンガ庁舎内の撮影スポットにて渡辺隆司会員をソロで



旧北海道庁赤レンガ庁舎を背景に菊池支部長をソロで



同菊池支部長を先頭に一枚



羊ヶ丘展望台にて北海道開拓の祖、クラーク博士の銅像に立ち寄り、博士の名言を胸に刻む。※Boys be ambitious ボーイズビーアンビシャス（青年よ、大志を抱け）

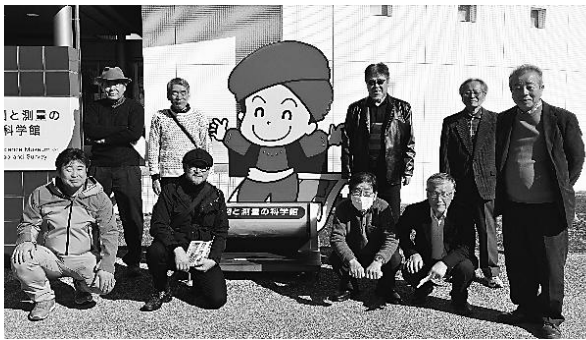


帰路、船内にて水平線を眺めながらのコーヒーは格別であった。

研修旅行を実施

会津支部 支部長 石川 征 義

会津支部では、会員の知識向上および相互の親睦を深めることを目的として、令和7年11月21日から11月22日にかけて、一泊二日の研修旅行を実施しました。本研修旅行は、測量および地図に関する理解を深めるとともに、歴史的・文化的背景に触れる貴重な機会となりました。何より会員間で同じ体験をし、いつもは話す機会のない事柄を話せたりする事はとても重要だなと感じました。



主なコース：・地図と測量の科学館・小江戸佐原（伊能忠敬記念館および周辺散策）・鴨川温泉・鴨川シーワールド・海ほたる経由で帰途

初日は「地図と測量の科学館」を見学し、測量技術の歴史や地理院地図の歴史等について学びました。土地家屋調査士の業務と深く関わる内容であり、測量技術の変遷や科学的根拠を改めて確認

する有意義な研修となりました。

続いて訪れた小江戸佐原では、伊能忠敬記念館を見学し、日本における測量・地図作成の礎を築いた伊能忠敬の業績について理解を深めました。また、周辺の歴史的な街並みを散策することで、忠敬と地域の発展との関わりを実感することができました。

二日目は鴨川シーワールドを訪れ、施設見学を通じて自然環境や地域資源の活用について理解を深めた。（私的にはシャチのショーの迫力が一番でしたが、）帰路では海ほたるに立ち寄り、東京湾の大規模インフラを間近に見学する機会を得ました。ちなみに海ほたるは公有水面に存しますが、建物登記は千葉県木更津の“**番地先”だそうです。



今後もこのような研修旅行を数年に一度でも、もっと多くの参加者で実施できればよいなと感じました。

* * * * *

いわき支部事業 「福島高等専門学校・平工業高校への出前授業」の報告

いわき支部 近 内 正 幸・和 田 賢 治

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、いわき支部では広報活動の一つとして、授業で測量を経験した地元高校生を対象に出前授業を行っております。この事業はいわき支部の先輩方が10年以上前から、将来土地家屋調査士を目指すきっかけづくりとして始めたもので、コロナ禍で実施できない期間もありましたが、今回5年ぶりに開催いたしました。

昨年の8月5日に福島工業高等専門学校都市システム工学科3年生、12月12日に平工業高校土木環境工学科2年生を対象に実施しましたので、以下のとおり報告いたします。

【福島工業高等専門学校】

(報告 いわき支部理事 和田賢治)

日 程：令和7年8月5日 9：30～10：45

対 象 者：都市システム工学科 3年生 (40名)

出前講師：古川造吾副支部長、飯高新司理事、

和田賢治理事

講座内容：

1. 不動産登記制度について
(担当 古川造吾)
2. 土地家屋調査士という仕事について
(担当 古川造吾)
3. 建築士と土地家屋調査士の比較、建築士の現状について
(担当 飯高新司)
4. 公務員から個人事業主となったことの経験談
(担当 和田賢治)

講座の趣旨としては、まずは土地家屋調査士と不動産登記制度を知っていただくこと。次に、都市システム工学科の現在の3年生から建築系科目を取り入れ、卒業時に2級建築士の受験資格が得られるカリキュラムであることから、建築士と調査士の関係性について1級建築士でもある飯高新司理事から説明をしました。また、都市システム工学科から公務員（主に技術職）になりたいという方もいることから、公務員（市職員）から個人事業主になるという私からの経験談を公務員と自営業の比較を通して話をさせていただきました。

講座の冒頭、古川副支部長の「土地家屋調査士を知っている人～」の問いに誰も手を挙げなかったものでやはり知名度の低さを痛感しました。しかし、そのためにこの出前授業があること、授業が終われば「土地家屋調査士」という言葉が聞いたことのある仕事になればとの思いから、調査士の魅力についてそれぞれの経験を基に話をしました。夏休み前のテスト返却後の時間を使わせていただいたの出前講座であったので、生徒たちは睡魔との戦いもありましたが、講師それぞれの話をじっくり聞いていただきました。将来土地建物に関わる仕事の際に必ず「登記記録」を確認する。その際に、「土地家屋調査士って聞いたことあるな」と思い出してほしいものです。また、会社に属するのではなく自身で事業をしてみたい、地元で貢献できる仕事がしたいと思ったときに「土地家屋調査士」という選択をする方が少しでも増えたらと願うものでした。出前講座の最後に学級委



古川副支部長



飯高理事



授業風景

土地家屋調査士と公務員（市職員）比較

土地家屋調査士

- ▶ 不動産登記、土地の境界の専門家
- ▶ 公平な立場で依頼内容を遂行
- ▶ 小さな案件から大きな案件まで
- ▶ 24時間どう働くかは自分次第
- ▶ 人を雇う・外注するは自分次第
- ▶ 廃業するまで現場を変えて同じ仕事
- ▶ 休み・年金・資産運用は自分次第
- ▶ 稼ぎがないと事務所は経営できない

公務員（市職員）

- ▶ 社会全体の奉仕者
- ▶ 市民のため、市のために働く
- ▶ 大きな事業・大きな計画に携わる
- ▶ 時間(8:30~17:15)で仕事をする
- ▶ 組織・担当ごとに仕事をする
- ▶ 3年前後で部署異動
- ▶ 福利厚生が充実(有給休暇・厚生年金など)
- ▶ 終身雇用(問題を起こさなければ)

和田理事スライドの一例

員長がお礼の挨拶ということで「私は大きい会社に属することよりも、小規模な会社でもやりがいを持って仕事をしたいと考えているので、今日の話は大変参考になりました」という言葉を頂戴したので、そのままありがたく受け取りたいと思います。また、担当教員からも来年度もお願いしたいとお言葉をいただいたので、今回の反省点を踏まえて来年度もいわき支部事業として継続していきたいと考えております。

【福島県立平工業高等学校 土木環境工学科】

(報告 いわき支部長 近内正幸)

日 程：令和7年12月12日 12:55~13:40

(短縮授業)

対 象 者：土木環境工学科 2年生 33名

(男27、女6)

出前講師：近内正幸支部長、加藤大貴会員、

佐久間洋希会員

講座内容：

1. 土地家屋調査士について (担当 加藤)
2. 体験談 (担当 加藤・佐久間・近内)

いわき支部会員の約2割が平工業高校の卒業生であり、今回の講師3人とも土木科の卒業生です。本会から視察の研修部長澤田法明理事も同校卒業生です。私にとって34年ぶりの教室であり、古関裕而氏作曲の校歌が懐かしく思い出されました。

同校では、昨年「高校生ものづくりコンテスト 全国大会（測量部門）」で土木環境工学科3年生3名が全国優勝するなど測量教育にも力を入れています。測量士補試験でも、令和7年度3名、6年度2名が合格しています。

事前の打合せにおいて、先生から「不動産登記の専門的な話よりも、土地家屋調査士という職業

の魅力を伝えてほしい」との要望がありました。

そこで、講座内容を不動産登記制度など難しい内容は避け、体験談を中心に「リアルな失敗談」「やりがい」「働き方の自由」「収入の現実」など、より身近に感じてもらえる話を行いました。

加藤会員から、土地家屋調査士について、調査士試験と勉強の苦労や会社員・個人事業主の違いとメリット・デメリットなど、会社勤めを経験した後に調査士になる選択肢があることなどを説明しました。佐久間会員から、転職や自身の病気を経て調査士となった経緯や、実際に行った仕事の業務内容を紹介しました。近内から、女性の調査士は少ないが、女性にとっても魅力ある職業であることや、普段生活するうえで必要な法律「民法」についても話しをしました。

講師3人とも調査士試験には苦労したので、試験の一部が免除される「測量士補」に挑戦して欲しいこと、調査士になってからも法改正や新制度が出来るので常に勉強が必要であることも伝えました。生徒から、「どのくらい勉強が必要か?」との質問がありました。

対象の2年生にとって、今後の高校生活と就職や進学を考える上でのヒントになれば嬉しいです。土地家屋調査士は挑戦と努力で未来を切り拓



授業風景

ける資格であるため、会社に勤務後の独立を考える際に「土地家屋調査士」という職業を思い出し、将来の選択肢の一つとして考えて欲しいです。

今回、不動産登記制度を省略しましたが、日調連冊子「マンガでわかる土地家屋調査士成長物語」などを配布し、興味を持った生徒が土地家屋調査士を学べるよう対応しました。

生徒へのエール

法律や土地の仕事の話は少し難しく感じたかもしれませんが、身近な生活や社会の仕組みを知ってもらい、皆さんの未来を切り拓くヒントになれば幸いです。また、「高校生ものづくりコンテスト」で優勝するなど、頑張っている後輩を観れてとても嬉しく思います。

皆さんのこれからの挑戦を心から応援しています。



加藤・佐久間・近内

随

筆

相続土地国庫帰属制度における 土地家屋調査士の立ち位置

会津支部 佐藤 一 男

昨今、相続土地国庫帰属制度が発足した。これに伴って、これら一連の申請手続きに係る新たな業務が調査士に舞い込むものと期待していたが、弁護士、司法書士、行政書士の独占という位置づけに限定。それもそのはず、当該制度の基本となる「相続等により取得した土地所有権の国庫への帰属に関する法律」（以下、「帰属法」という。）において、土地の“所有権”の帰属を根幹に、帰属法第2条第2項第5号における申請手続きの却下事由の一つである“不明境界土地”の“境界”とは、「筆界」ではなく、「所有権の境界」を意図していることにある。この帰属法で謳う“境界”の根源は、土地基本法第6条第2項に示す「所有権の境界」に起因するようだ。つまり、決める「境界」は、「筆界」ではなく、「所有権の境界」故に「調査士はお呼びでない」と言わんばかりで、ひねくれたくなる。

帰属法では、単に「境界」と曖昧な表現にとどめているものの、土地基本法の所管省庁である国土交通省が、是が非でも「所有権の境界」に拘る意図が判然としない。

そもそも、民法に「所有権の境界」を定義する条文は、一切存在しない。それでも解釈法的に「所有者双方で勝手に決めた境界をもって所有権の境界という」が、独り歩きしているのに過ぎず、法的根拠は皆無と言えるからだ。特に、境界法という体系的に「境界」を定義し、その公信力

をつぶさに規定する法律が、我国に存在しない以上、「所有権の境界」を確認する行為は、根拠性に乏しく、極めて危険と言わざるを得ない。ただし、この「所有権の境界」に準ずる「所有権の範囲に係る合意形成」の存立性を担保する判例が存在する。「双方で合意した境界線が真実の境界線に合致しない場合、その差異分の土地所有権を一方から他方へ譲渡する合意をしたものとみなす」（大阪高裁判昭57.29）。この意図は、憲法で保障する財産権の行使の総体であり、処分行為という法律行為を担保する所以であろう。

「所有権の境界」が問題になるのは、所有権確認訴訟という裁判上の出来事であって、一般的にはなじみが薄い。実のところ「所有権の境界」という表現は間違いで、正確には「所有権の及ぶ範囲」が妥当と解される。ただし、その存在意義は「筆界」と次元共有をしている時に、初めて機能する。特に、「筆界」がなければ所有権確認訴訟における「所有権の及ぶ範囲」＝訴訟物の特定ができないなど、表裏一体の関係にある。

さらに、比較法的観点から考察すると、「境界」の確認をすることは「筆界」の確認であって、「筆界」に争いがないという客観的事実関係をもって、「所有権の境界」が担保されることになる。何故なら、「筆界」と「所有権の境界」は次元共有物であって、現に存在する「境界」とは、「筆界という境界」のみである、と推定されるからである。

よって、土地基本法に基づく帰属法の申請手続きにおける「所有権の境界」の確認行為を求めることには納得がいかない。恐れることは不動産登記法に基づく唯一の公示制度に反する「所有権の境

界」の創出が多発し、訴訟の嵐が吹き荒れることへの懸念である。この事実関係からみても、当該制度に調査士が係ることは職責上、また道義的観点から、極めて難しいのではないのか。

* * * * *

江戸時代の「日本地図ベストセラー」といえば？

いわき支部 近 内 正 幸

茨城県つくば市の国土地理院「地図と測量の科学館」を訪れた方も多いと思いますが、館内には石川流宣、長久保赤水、伊能忠敬の複製地図が展示されている。以下に、展示の説明文を掲載する。

① 「日本海山潮陸図」

作製年 元禄4年（1691）

作製者 石川流宣（生没年不詳）

本図は、海部には波形と航路が、陸部には藩名、街道、宿駅、名所などが表示された美しい地図です。

② 「改正日本輿地路程全図」

作製年 天保11年（1840）初版：1779

作製者 長久保赤水（1717～1801）

縮尺 1：1,296,000

本図は、緯線と方位を示す方角線を描画した最初の日本地図で、初版は1779年に作製され、長久保赤水が没した後も改訂・出版されました。原則として10里（40km）を1寸（3cm）とする縮尺を用い、江戸期を通じて最も普及した地図といわれています。赤水は、茨城県高萩市の生まれで、儒学者であり地理学者でもありました。赤水が編集した日本全図を総称して赤水

図と呼びます。

③ 「大日本沿海輿地全図 関東」（中図）

作製年 文政4年（1821）

作製者 伊能忠敬（1745～1818）

縮尺 1：216,000

大日本沿海輿地全図（伊能図）は、江戸幕府の命令により、伊能測量隊によって寛政12年～文政4年（1800～1821）に測量・編集された地図で、伊能図には「大図（縮尺1：36,000）」214面、「中図（縮尺1：216,000）」8面、「小図（縮尺1：432,000）」3面があります。なお、本図は明治7年（1874）以降、陸軍参謀局が模写したものです。

タイトルの答えは、「赤水図」です。土地家屋調査士である皆さんはご存知でも、一般的には、伊能忠敬は知っていても、長久保赤水は知られていないことも多いと思います。私自身も詳しくなかったため、長久保赤水について調べてみた。

最初に茨城県高萩市公式チャンネル「その先を往け！日本地図の先駆者 長久保赤水」のYouTube動画を見た。<https://www.youtube.com/watch?v=w9d7mvNsXa4>

また、岡村青著「長久保赤水と伊能忠敬の二度咲き人生」（共栄書房）も参考にした。

江戸幕府の地図事業では、慶長・正保・元禄・天保の4回、国ごとの国絵図・郷帳や城絵図が幕府の命令により全国的に統一した決まりで作製され、国絵図を基に日本図が作られた。（天保は伊能図があり未作製）

赤水図以前に流行した日本地図が、石川流宣（とものぶ）の「日本海山潮陸図」（流宣図りゅうせんず）であり、1691年の刊行から赤水図が登場する1779年までの約90年間、日本地図の代表とし

て広く用いられ続けた。NHK大河ドラマ「べらぼう」の時代です。

長久保赤水は、国絵図、古地図、旅人の記録、測量資料などを収集し、「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を完成させた。伊能図より42年前に緯線（縦線≠経線）入りの日本地図が作製され、一般に販売された。伊能忠敬も全国の測量時に赤水図を携帯した。

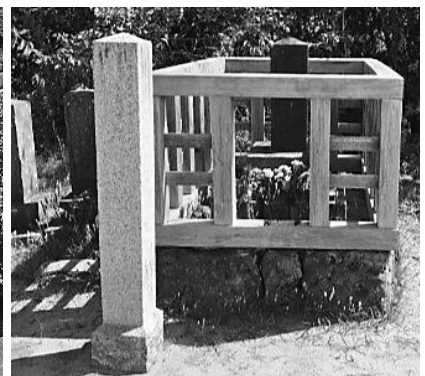
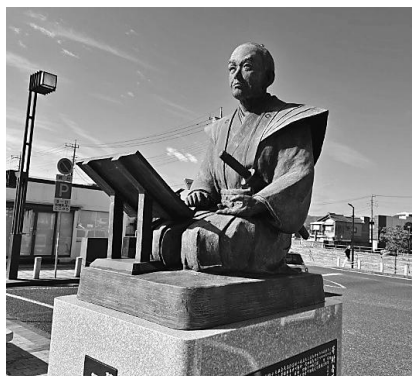
赤水が資料を収集できた背景には、水戸藩の学問的土壌があった。二代藩主徳川光圀は「大日本史」編纂のため彰考館を設け全国から学者を招き入れ、六代藩主徳川治保も学識者を藩士に登用した。赤水は立原蘭溪の協力により彰考館に保管の国絵図を模写できた。

農民出身の赤水も「大日本史（地理志）」の執筆を行った。

いわき市から南へ40kmの茨城県高萩市は、長久保赤水生誕の地であり、高萩市歴史民俗資料館（長久保赤水記念館）、高萩駅前に銅像、生誕地に石碑、墓所などがある。

赤水図には、いわきであった不思議な現象として、関伽井嶽の龍燈が記載してある。

四倉の海上で炎が発生し、夏井川を遡り、関伽井嶽の杉の木に灯った。この龍燈現象については、いわき地域学会代表幹事夏井芳徳さんの著書「磐城平藩の話」にも記述がある。



（下の写真）1200年以上の歴史ある関伽井嶽薬師常福寺と龍燈杉



(ちょっと寄り道) 高萩市役所から南西2kmに高萩市衛星通信記念公園(さくら宇宙公園)がある。**国立天文台**水沢VLBI観測所の高萩局と日立局には、直径32mパラボラアンテナがある。日本の衛星通信の始まりは、1963年(東京オリンピックの前年)日米間テレビ衛星中継でこのアンテナが使用された。ケネディ大統領が日本国民へ向けた録画メッセージを中継する予定であったが、実際にはケネディ大統領の暗殺のニュースという、歴史的にも衝撃的な出来事だった。(私が生まれる10年前の話)

現在は、東アジアVLBI観測網を形成しブラックホールの研究などに利用されている。

高萩局アンテナは、茨城大学が年1回公開しており、令和7年は4月26日アンテナの裏側まで登ることが出来た。

(ちょっと脱線) **国土地理院**VLBI観測(超長基線電波干渉法)は、茨城県石岡測地観測局で行われGNSS(電子基準点)との位置関係(ローカルタイベクトル)を求めている。

国土地理院ホームページに、ローカルタイ測量の説明がYouTube動画で公開している。

<https://www.gsi.go.jp/uchusokuchi/vlbi-work.html>

また、国土地理院では衛星測位を基盤とする標高体系に移行し、令和7年4月1日、全国の基準点標高成果を、「測地成果2024」に改定した。

赤水図に話を戻すと、赤水図には欠点がある。既存地図等を編纂しているため、基の資料に誤りがあると、作製する地図にも誤りを引き継ぐ。旅行者から話を聞くなどし修正を重ね、赤水図は5版まで発行された。赤水没後50年を経ても、吉田松陰が東北旅行に赤水図を携帯するなど、改良を繰り返す赤水図は、100年間にわたって大ベスト

セラーとなり、庶民の間にも広く普及した日本地図である。長久保赤水の地図作りは日本だけでなく、アジア、そして世界へと広がり1783年「大清広輿図」、1785年「改正地球万国全図」などを作製した。赤水図にない蝦夷地について、1790年「蝦夷之図」を作製したが松前藩以外の精度は劣る。

赤水図には、竹島が記載されているため、日本政府はこの地図を「江戸時代の庶民が竹島を日本の領土として認識していたことを示す代表的な資料」と評価している。2020年長久保赤水関係資料693点が国の重要文化財に指定された。

一方、伊能忠敬は全国を歩き実測した。「大日本沿海輿地全図」(伊能図)の完成を待たずに亡くなり、伊能忠敬の天文暦学の師・高橋至時の子高橋景保が地図を仕上げた。測量が未完の蝦夷地は、間宮林蔵の測量データを用いて作製した。伊能忠敬が第一次測量で蝦夷地に滞在中、間宮林蔵と出会い測量技術を教えた師弟の間柄である。間宮林蔵の生誕の地であるつくばみらい市には記念館と移築した生家がある。

伊能図は幕府により非公開とされ、国外への持ち出しは禁止された。しかし、シーボルトが国外へ持ち出そうとした際、伊能図(中図)を渡した高橋景保は斬首刑となった。この事件の発覚は、シーボルトが間宮林蔵に送った書簡である事も奇妙な縁である。

幕府保管の伊能図は消失、伊能家控え図も関東大震災で消失したが、2001年アメリカで伊能図(大図)の複製が発見された。2010年伊能忠敬関係資料2,345点が国宝に指定された。

長久保赤水(85歳没1801年)・伊能忠敬(73歳没1818年)とも、50歳を過ぎてから精力的に地図づくりに取り組み、その情熱は生涯尽きることはなかった。

新人調査士紹介



相双支部 **鈴木 直人**
(すずき なおと)

相双支部の鈴木直人と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

令和7年3月末に35年勤務した法務局を山形地方法務局総括表示登記専門官を最後に早期退職し、浪江町に移住しました。

福島復興局に2年間出向した際、被災地の姿を目の当たりにして、組織の一員としてではなく、被災者や移住者支援に向けて、直接的に貢献したいという強い意志が芽生えました。

復興においては、道路や橋などのインフラを整備していくことも重要ですが、これらの復興は、「人と人をつなげる」ことが根幹と考えており、そういった意味で、土地家屋調査士は「困ったときに気軽に相談できる地域の法務インフラ」だと思っています。

これから色々な人との出会いを大切にし、つながりの波紋を広げていけたらと思っています。

若輩者でありますので、福島県会の皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

* * * * *



郡山支部 **山 本 昂**
(やまもと すばる)

この度、郡山支部にて登録いたしました山本昂と申します。

私は現在も不動産業に従事しており、実務の中で土地家屋調査士の先生方の専門性と公共性に深く感銘を受け、自らもその道を志

しました。

これまで培った不動産取引の現場感覚や、当事者間の利害調整の経験を活かし、一件一件の案件に誠実に向き合う所存です。相手にとって何がベストなのかを考えながらそれをご提案出来るよう自己研鑽を努めてまいります。

まだまだ若輩者でございますが、諸先輩方の温かいご指導を賜りながら、正確な登記制度の維持と地域社会への貢献に尽力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

* * * * *



郡山支部 **佐 藤 政 輝**
(さとう まさき)

この度、土地家屋調査士として登録させていただきましたベストファーム土地家屋調査士法人の佐藤政輝と申します。所属は郡山支部になります。

これから土地家屋調査士として社会に貢献していけるよう努めて参りますので宜しくお願い致します。また自己研鑽することも忘れず、誠実さと品位を持ち業務に対して真摯に取り組んで参ります。

年男・年女紹介



1. 調査士登録年
2. 生年
3. 趣味
4. 好きな○○
5. 昨年の思い出または今年の抱負
※敬称略

柴 山 大 輔 (福島支部)

1. 平成29年
2. 平成2年
3. 観光がてらの歴史探訪
5. 脱二日酔い

黒 森 陽 一 (福島支部)

1. 平成14年
2. 昭和41年
3. スポーツ観戦、麻雀
4. 好きな酒：アルコールなら何でも好き
5. 昨年末に2歳になった孫から帰省の度に『じいじ』と呼ばれたことが良い思い出です。還暦となり、健康第一に仕事と趣味の両立を目指します。

小野寺 正 貴 (郡山支部)

1. 平成20年
2. 昭和53年
3. スポーツ観戦
4. 好きな食べ物：ハンバーグ
5. 昨年はゴルフを再開したが、練習すればするほどスコアが悪くなっていき、土井会長に抜かされそうなのでゴルフクラブを物置の奥に眠らせるか検討中である。今年は副鼻腔炎を治したいです。ADR、筆界特定の研修会を受講すると自分の勉強の足りなさを実感。日々勉強を心がけたいと思います。

川 崎 寿 紀 (相双支部)

1. 平成15年
2. 昭和41年
3. 4. 特にないので、見つけたいと思っています。

5. 昨年は、一昨年に続き体調不良になったので、健康に気を付けて過ごしたいと思います。

* * * * *

その他

年男・年女を迎えられる会員の皆様 (敬称略)

福島支部

- 阿 部 雅 之 (昭和53年生)
菅 野 二三男 (昭和29年生)
後 藤 秀 明 (昭和29年生)
小 林 正 行 (昭和29年生)
三 瓶 文 孝 (昭和29年生)

郡山支部

- 菊 田 圭 輔 (平成2年生)
佐 藤 拓 弥 (昭和53年生)
渡 部 宏 一 (昭和41年生)
保 坂 道 賢 (昭和41年生)
二 瓶 祐 一 (昭和29年生)
宍 戸 實 (昭和17年生)

会津支部

- 赤 城 裕 美 (昭和53年生)
石 川 征 義 (昭和41年生)

白河支部

- 佐 藤 萬 吉 (昭和17年生)

いわき支部

- 草 野 政 則 (昭和29年生)
小野田 幹 朗 (昭和17年生)

相双支部

- 坂 本 和 久 (昭和29年生)

(リレー企画) 土地家屋調査士のわんぱく現場メシ紹介のコーナー

第4回を担当致します、いわき支部の古川造吾です。

前回の柴山大輔さんからバトンを受けました。よろしくお願いします。

今回紹介するにあたり、いわきならやはり魚料理ということで、美味しい食事処をご紹介します。



今回、私が紹介するのはいわき市鹿島町にある「食堂 むらさき」です。

以前は居酒屋でしたが、店主が体調を崩し、現在は息子さんが中心となりランチタイムのみ営業しております。

ランチは定食、丼類、セット丼と選択肢も豊富で、それぞれ刺身、煮魚、焼き魚、フライと魚料理を堪能できます。

こちらで扱っている海産物は、店主が元卸業をしていただけあって、鮮度や旨さは折り紙付きです。その季節ごとの旬な魚を、ボリュームのある定食で提供しています。

中でも私のおすすめは煮魚で、写真はミニ海鮮丼と煮魚のセット丼（1,600円）です。

魚には煮汁が絡んで、癖のない脂が煮汁に溶け出しており、最高です。ご飯がとまりません。思い出したらまた食べに行きたくなりました。

昔はこれを肴に日本酒を楽しんでいました。あばら骨の間の脂のところや、皮の際のやわらかいゼラチン質のところ、えら元の筋肉が発達したところがまた旨いです。骨の髄までしゃぶりついていましたね。現在のランチ営業スタイルでもお酒を提供しています。午後の現場が出来なくなりますが。



話が逸れましたが、こちらのお店は街道から一本奥まっているにもかかわらず、ピーク時には満席で行列が出来ています。おすすめは開店時間直後の11時で、品切れの心配もなく楽しめると思います。いわきに来た際は是非ご堪能下さい。

話が逸れましたが、こちらのお店は街道から一本奥まっているにもかかわらず、ピーク時には満席で行列が出来ています。おすすめは開店時間直後の11時で、品切れの心配もなく楽しめると思います。いわきに来た際は是非ご堪能下さい。

店舗情報

『食堂 むらさき』

住 所：福島県いわき市鹿島町久保一丁目
12-7

T E L : 0246-58-7571

営業時間：11：00～15：00

定休日：水曜日

次回の現場メシ紹介者は、
郡山支部 渡邊優会員に
お願いしました。



古川 造吾
(いわき支部)

Information

今後の会務予定

3月4日(水) 第3回業務研修会 郡山市「ビッグパレットふくしま」

会員異動 ※敬称略

○入 会○

令和7年8月1日 鈴木 直 人 (相双支部)

令和7年9月10日 山 本 昂 (郡山支部)

令和7年10月1日 佐 藤 政 輝 (郡山支部)

●退 会●

令和7年9月30日 鈴木 英 範 (郡山支部)

令和7年11月20日 根 本 大 助 (いわき支部)

令和7年12月26日 加 藤 大次郎 (福島支部)

◎支部異動◎

令和7年10月1日 斉 藤 浩 一 (いわき支部 → 郡山支部)

編集後記

令和8年、新年明けましておめでとうございます。

「会報ふくしま」にご寄稿頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

会員数が減少している今般、福島県土地家屋調査士会会員に少しでも役にたつような情報をお届けしたいと考えております。また、できれば外部への土地家屋調査士の情報として発信できればとも思っております。福島会のホームページの電子版「会報ふくしま」を周知していただけるよう会員の皆様には日頃から広報をお願いできればと思います。ご協力の程、よろしくお願いいたします。新しい年、そして新年度が皆様にとって良い1年になります様、願っております。

広報部長 宗像 浩

会報ふくしま No.91 (新春号)

発行日 令和8年1月23日
発行者 会長 土 井 将 照
発行元 福島県土地家屋調査士会
〒960-8131
福島県福島市北五老内町4-22
TEL : 024-534-7829
FAX : 024-535-7617
E-mail : info@fksimaty.or.jp

印 刷 株式会社 阿部紙工

* * * * *

★会報ふくしまは、福島県土地家屋調査士会ホームページへの掲載も行っております。ぜひご利用ください。

測量機器総合保険

(動産総合保険)

のご案内

日本土地家屋調査士会連合会共済会 測量機器総合保険の特徴

「土地家屋調査士賠償責任保険」とは異なりますのでご注意ください。

会員が所有・管理する測量機器(製品No.のある機器に限る)について

**業務使用中、携行中、保管中等の
偶然な事故による損害に対し、
保険金をお支払いします。**

例えば

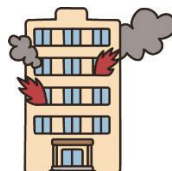
1

測量中誤って
測量機器を倒し壊れた。



2

保管中の測量機器が
火災にあい焼失した。



3

測量機器を事務所、自宅等
に保管中に盗難にあった。



等

● 個別にご加入されるよりも保険料が割安です。

保険金額200万円の年間保険料

測量機器総合保険(本制度): 30,000円

動産総合保険(個別加入): 83,820円

**約64%
割安!**

● 免責金額はありません。

このチラシは動産総合保険の概要をご説明したものです。詳細はパンフレット等をご覧ください。
ご加入ご検討の方、パンフレットをご希望の方は桐栄サービスまたは三井住友海上までご連絡ください。

保険期間

2025年4月1日午後4時から2026年4月1日午後4時まで

※保険期間の中途での加入もできますので、ご希望の場合には桐栄サービスまでご連絡ください。

お問い合わせ先

日本土地家屋調査士会連合会共済会

取扱代理店

有限会社桐栄サービス

東京都千代田区神田三崎町1丁目2-10

土地家屋調査士会館6F

TEL 03(5282)5166

引受保険会社

三井住友海上火災保険株式会社

広域法人部営業第一課

東京都千代田区神田駿河台3-11-1

TEL 03(3259)6692